

# 解答編

## 英語

### 1

#### 解答

A. 1-① 2-④

B. 3-② 4-①

【解説】 A. 1. 久しぶりに会った友人に How have you been? 「元気にしていた?」と声をかけられ、近況を答えた後、How have you been? 「あなたは?」と、③ you を強調して相手に聞き返す。

2. Have you seen it? 「その映画を観たことがある?」と尋ねられ、「ひどい映画だった」と新しい情報を与えている。④ terrible を強調する。

### 2

#### 解答

A. 5-① 6-① 7-① 8-① 9-② 10-①

11-④ 12-② 13-④ 14-④

B. 15-③ 16-④

C. 17-① 18-③ 19-② 20-③ 21-①

【解説】 A. 5. furniture 「家具」は集合名詞で不可算名詞。また、many kinds of ~ は「多くの種類の~」。「種類」の意味の kind は可算名詞。したがって、③が適切。

6. aged from six to twelve 「6歳から12歳までの年齢の」 形容詞 aged は数詞の前において「~歳の」の意味。よって、③が適切。

7. 現在完了形の have done ~ since … の形。know は進行形にしない。したがって、③が適切。

8. 比較級 + than any other + 単数名詞 「他のいかなる~よりも…」 したがって、③が適切。

9. 「街には多くの素敵な家があるが、本当にくつろげるので、わが家が一番だと思う」という意味。ours は our house 「私たちの家」の意味。よって、②が適切。

10. 「若いときはやりたいことをすることを恐れるべきではない」

## 国語

(六〇分)

問題一、次の文章を読んで、後の問い(問1~10)に答えなさい。なお、冒頭の「この章の副題」とは、「タマゴが先かニワトリが先か」というものである。

この章の副題は、答えのない難問の典型としてよく引かれるものである。これは、わざと答えが出せないように工夫してつくった問いなのかもしれない。あるいは、問い方がまちがっている、ともいえる。この問いが代表している生物学上の現象は、いうまでもなく一種の循環(サイクル)である。

一般に「循環」とよばれる現象には、原理的に二種のものがある、と思われる。ひとつは、本来不滅である物質やエネルギーが、その時どきにそれが宿るものの位置、その場所での性質・かたちを変えながら(あるいは変えずに)、いろいろな宿主・担い手をめぐったあと、もとの場所に戻る現象であり、典型的には血液の循環などが、わかりやすい例である。

「循環」のもうひとつの現れ方は、事物のある状態が、一見まったく消えてしまったように見えながら、ある時間的経過のうちに、再び同様のかたちで回復する経過である。毎年同じところにサクラの花が咲くのは、そのわかりやすい例だろう。この場合、最初の出現を担った物質が、そのまま再現する必要はない。再現するのは、多種の物質の「配置」によって具現化する表面的なすがた(configuration)である。通常表面上のすがたが各種の状態をめぐって再現されるまでに、ある程度時間がたつ。そ

のあいだに、<sup>(a)</sup> 継起する各種の状態を担うものが、じつは連続したひとつの「主体」であることがたやすく確認できるものも少なくないが、再現される状態が、はじめの状態とは多少ともちがっていることもある。ここに変化しながらも継続している状態の担い手を「主体」とよぶのは、つぎの理由による。

たとえばイネの栽培のように、循環し・再現するモノが人間の支配のもとにあるとしても、状態が一巡りするものは、あくまでもそうやって変転する母体（当事者としてのイネ）の都合・事情によることである。実際、イネは時期が来れば結実する。イネを植える人間は、外から肥料をやったり、草取りをしたりしても、結局はイネのなかの「自然」が活動するのを外から見ているよりほかはない。しかし、そうやって再現できるものが、最初にあった対象（主体）と同じだ、あるいは少なくとも同様な種類の別の個体だ、と見てよいかどうかは、対象がたどる状態変化の経過を、はじめからずっと追跡して確かめることができる場合（たとえば花が咲くサクラの樹）には、確実にそうだと認識できる。栽培農業の場合もこれに相当するだろう。山林の樹木の芽吹きなどのように、追跡が厳密になされていなくても、類推による **X** を通じて、「循環」は対象の仮の <sup>(ア)</sup> リンジのすがた（状態）の一時的な消失に続く「再現」による、とする解釈がうけいられる。もうひとつの典型的な例としては、二十四時間を通じての、地球上の一点から見た太陽の動きをあげることができ。

**B** この二つの「循環」のうち、広くいって前者はある時間間隔のうちでの「モノ」の移動と帰還にかかわり、後者は必要な時間がたったあとでの「コト」の再現にかかわる。これらの二つを区別するためには、「実体の循環」と「状態の回復」とでもしておくのがよいだろうか。後者はさらに、回る車を駆動する力の比喩で、「回転」turnoverとも表されるだろう。回転の場合は、モノの循環と異なつて、再現する実体あるいは「主体」を構成している物質自身は、かならずしも再現に参加しなくてもよい。その適切な例としては、構造主義言語論の創始者と見なされているスイスのソシュール<sup>(注2)</sup>が使った「ジュネーヴ八時四十五分発パリ行急行」（ソシュール一九一六）がよく引かれる。いまの日本ならば、「新大阪七時発ひかり二〇八号東京行」などの例に

すればよい。私たちは平常、毎日「同じ」列車が出るから明日もそれに乗れる、と思っている。しかし、列車の車両や乗務員がいつも同じわけでは決していない。それはモノや個人としては、毎日まったくちがう列車であってもさしつかえない。問題は、毎朝決まった時間に、あらかじめ決められた時刻表どおりに東京まで運行される列車があるかないか、ということである。これがここでの状況あるいはコトの「同一性」を決めるので、それを担う物質やそれにかかわる人たちが列車の同一性を決めるのではない。ここに繰り返し現れる、すなわち帰属する対象（主体）の「同一性」が、**I** ことが <sup>(b)</sup> 明瞭になる。話をニワトリとタマゴに戻せば、そもそも一番はじめにあったのは、ニワトリでもなければタマゴでもなく、実体（モノ）の集合が、ある「かたち」（われわれがニワトリやタマゴとして認識する「かたち」）をなし、それが時間とともに状態を変えながら続いているうちに、最初に現れた「かたち」が復帰・再現し、それ以後もこのような状態変化が繰り返される、という **Y** であつたはずである。状況（モノ）の変転が生じてよいという条件下で、コトの循環あるいは回転が起こつたわけである。このようにして、生物の存在は、時間の軸に沿って、同じコトが循環・回復する仕組みにもとづいている。私がそういうのは、こうした循環が、生物の発生以来決して絶えることなく続いてきた、という現代科学の仮定をうけいれるからである。そのウラには、生物の自然発生は、生物が一番最初に発生して以来、二度と起こらなかった、という、現在定着している信念がある。この信念は、生物の外観的な多様性にもかかわらず、その化学的な営みが、驚くほどの斉一性をもっていることによって強く支持されている、と見てよいだろう。

このようにして、<sup>(c)</sup> 現代の生物学では、すべての生物は、はじめの状態に復帰しては、循環を繰り返すものだ、と考えられている。例外の生物がもし仮にあったとしても、「生物」とは認識しにくいし、またそのような一回限りの、増殖しない生物の存在は知られていない。そうして、このような原状復帰は、循環の輪がひとまわりするだけでなくて、そのときに通常、数が増えている。つまり増殖する。ときどき外からの原因で（敵に食われる、災害で殺されるなどして）、生物の体が壊されてしまう

こともあるので、本来数の増加なしに循環の環が繰り返されていけば、やがて、みんななくなってしまうだろう。だから、オス・メス一対のニワトリは少なくとも二個以上のタマゴを生まなければ、その持続が「ホシヨウ」できない。《i》このようにして、ニワトリとタマゴの例には、循環と増殖の重なったもの、という含みがある。だから最初にあったものは、ニワトリやタマゴでなく、ある物質的な関係を宿した、循環と増加を本性とする存在様式（あるいは存在関係）であった、ということになる。《ii》

この事情のウラには、増殖をともなつた循環（これを今後「増殖」とだけいうことにしよう）が繰り返されてゆくために必要な、事物の組み合わせ方、いいかえればシステム・系のあり方（階層構造、多くはむしろ網目構造）を決める——つまり「関係性」を定める法則ないしは枠組みがあったはずである。《iii》それを「構造」とよべば、コトが始まり、そして持続するのは「構造」が定立するためで、ニワトリもタマゴもその「構造」が持続してきたことの結果にしかすぎない、ということがわかってくる。《iv》はじめの問いが誤っていたのは、タマゴやニワトリのような、目に見えやすいが限られた期間しか持続しない実体が存在の究極の原因だ、と思つて、そのどちらがより根源的なものか、を問うたためであった。根元的な存在は、事物の関係性についての一定のきまり、すなわち「構造」なので、それは目には見えないものである。それは、二の三倍はつねに六になる、という算術の規則が目に見えないのと同様である。もちろんミカンを六個置いておけば、目には見えるが、二×三＝六で表される法則は、はるかに目には見えにくく、繰り返して一定の「ソウサ」をミカンなどの個物に加えることによって、はじめて人間に認識できることである。

ある生物の増殖（すなわち循環）が可能になる関係性があるかぎり、その関係性のなかの細部の手直しを繰り返すことによつて、たがいに循環しあふ実態として、今日われわれがタマゴとして認識する存在と、ニワトリとして認識する存在とが、決まつた関係のもとで出現してきたはずである。こう考えれば、コトは単にニワトリとそのタマゴにだけかわるものではない。それ

は、増殖するすべての生物についての循環構造が存在の根源である、ということと同時に示す。また、生物学での一番根源的なものは、なんらかの目に見える実体であるよりは、その実体の存在をかげで支えている、目には見えない、あるいは「ヨウ」には見えにくい「構造」の成立とその存続である、ということをも明らかにしている。

—柴谷篤弘『構造主義生物学』による—（出題の都合上、一部中略した箇所がある）

（注） 1 configuration…部分や要素の相対的配置。

2 ソシユール：フェルディナン・ド・ソシユール。スイスの言語学者（一八五七～一九一三）。

問1、傍線部（ア）（エ）の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

【解答番号】 1 4

- |                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（ア）リンジ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 10px auto;">1</div> <p>① ジンリンに反する行為。<br/>② リンギン変に対処する。<br/>③ リンバンで掃除をする。<br/>④ 海にリンセツする公園。</p> | <p>（イ）ホシヨウ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; margin: 10px auto;">2</div> <p>① 公約実現のシヨウガイとなる。<br/>② 友人に家族をシヨウウカイする。<br/>③ 権力をシヨウウアクする。<br/>④ 裁判のシヨウウコを集める。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(ウ) ソウサ

3

- (a) 山でクマにソウグウする。  
 (b) 会場がソウゼンとなる。  
 (c) 壁を白くトソウする。  
 (d) 工場がソウギョウを始める。

(エ) ヨウイ

4

- (a) アンイな考えを慎む。  
 (b) 自然にイケイの念を抱く。  
 (c) 旅行の手配をイライする。  
 (d) イゲンのある態度をとる。

問2、傍線部(a)・(b)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の(a)～(d)のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(a) 継起

- (a) 次から次へと現れること  
 (b) 再び活動を始めること  
 (c) 始まって終わること  
 (d) 勢いが強くなったり弱くなったりすること

5

(b) 明瞭

- (a) 考えのもとであること  
 (b) さまたげること  
 (c) 間違いないこと  
 (d) はっきりしていること

6

問3、本文中の空欄 X・Y に入る最も適当な語を、次の(a)～(d)のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

X

Y

[解答番号]

X

7

Y

8

|   |   |
|---|---|
| Y | X |
|---|---|

- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| (a) 具体化 | (b) 合理化 | (c) 一般化 | (d) 擬人化 |
| (a) 遺伝性 | (b) 関係性 | (c) 蓋然性 | (d) 指向性 |

問4、次の文は本文の一部である。これを入れるのに最も適当な箇所は本文中の空欄《i》～《iv》のうちどれか。次の(a)～(d)のうちから一つ選びなさい。

[解答番号]

9

つまりは、もともと存在しなかったのと同じ結果になる。

- (a) 《i》 (b) 《ii》 (c) 《iii》 (d) 《iv》

問5、傍線部A「あるいは、問い方がまちがっている、ともいえる」とあるが、なぜ「まちがっている」といえるのか。その説明として最も適当なものを、次の(a)～(d)のうちから一つ選びなさい。

[解答番号]

10

- (a) ニワトリとタマゴは、どちらも生物の根源にある循環と増殖の構造の中で一時的に出現する実体にすぎず、どちらがより根源的かを議論することはできないから。  
 (b) この問いが代表している生物学上の循環は二種類あり、まずニワトリとタマゴがそのどちらに当てはまるかを決定しなければ議論を進めることができないから。  
 (c) 現代科学では、生物が最初に発生して以来、生物の自然発生は二度と起こらなかったとされており、ニワトリや

タマゴが自然に発生することは考えられないから。

- ④ この問いはニワトリとタマゴだけでなく、タマゴによって増殖するすべての生物について、より根源的なものは何かという生物学の問題にかかわるものであるから。

問 6、傍線部 B「この二つの『循環』」とあるが、「二つの『循環』」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

【解答番号 11】

- ① 「循環」のうち「実体の循環」においては、同一の物質がある時間間隔で同様に再現される必要がある。  
 ② 「循環」のうち「実体の循環」においては、再現する実体自身がかならず再現に参加しなければならない。  
 ③ 「循環」のうち「状態の回帰」においては、回帰する物質が人間の支配下にあることが重要である。  
 ④ 「循環」のうち「状態の回帰」においては、再現する実体が同じであるかどうかは問題とされない。

問 7、本文中の空欄 I に入る最も適当な言葉を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

【解答番号 12】

- ① モノの移動と帰還にかかわる循環である  
 ② コトの循環によるのであつて、モノの循環でない  
 ③ コトの変転が生じてもよいという条件下であつた

- ④ コトの同一性ではなく、モノの同一性を意味している

問 8、傍線部 C「現代の生物学」における考えとして適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

【解答番号 13】

- ① 生物の自然発生は、史上一度だけ起こった。  
 ② すべての生物は、大本で一つにつながっている。  
 ③ 生物はその外見と同様に多様な方法で生殖する。  
 ④ 生殖の仕組みをもたない生物は地球上に存在しない。

問 9、傍線部 D「二の三倍はつねに六になる、という算術の規則が目に見えないのと同様」とあるが、どのような点が同様、たというのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

【解答番号 14】

- ① 根源的な存在である生物の増殖の構造が、実体を通してのみ認識できること。  
 ② 実体ではなく循環と増加を本性とする存在様式が最初に存在したということ。  
 ③ 目で認識できるが持続が限定的な実体は、存在の究極の原因になりえないこと。  
 ④ 循環の繰り返しに必要な関係性を定める法則や枠組みが構造であるということ。

問10、本文の内容に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

【解答番号 15】

- ① 植物の栽培において、状態の循環と再現が人間の管理下で行われる場合、その主体は人間である。
- ② 山林の樹木は状態変化の厳密な追跡が不可能なため、同じ主体が再現されたとみなすことはできない。
- ③ 現代の生物学の定義では、生物とは増殖しながらはじめる状態に復帰することを繰り返すものである。
- ④ 種が絶滅しないためには、有性生殖の生物は一回の出産や産卵で二以上の個体を産む必要がある。

問題二、次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えなさい。

「文化の多様性」と言葉で言うのは簡単ですが、それは何かとあらためて考えると実は難しいのです。そもそも文化という言葉がさまざまな意味で使われ、主張されています。その中には文化を肯定的に捉える立場もありますが、否定的に、疑問を呈する立場もあります。「文化」フンソウ・戦争を指摘し、「文化は戦争」と言う人もいるほどです。

最近日本でも評判となったA・ネグリとM・ハートの著書『帝国』の中でも、「文化」の否定面に論及がされています。ふつう人種主義（レイシズム）という、わかりやすい例ではアメリカにおける白人種と黒人種の対立・争いが引き合いに出されます。これは肌の色といった、生物学のあるいは身体的な特徴で区別をし、差別をするものです。アジア人であれば黄色人種というぐあいに、これも身体的特徴によって分けられ、価値づけられます。このように人種主義や人種の理論はまず生物学的区別に根拠を求めますが、そもそも人間の肌の色とはどのように明確に区別できるほどはつきり分かれているものではないという説も

あります。白と黒、白と黄色といっても、その間の中間的な色が実際にはたくさんあるのだから、厳密な区別はできない、また同じ「人種」の間であつてもそうした違いを言えば切りがない、ということもできるでしょう。現代では、国際結婚や異民族間の通婚による「混血」も増え、身体的特徴による区別・差別はますますむずかしくなっています。

その一方でネグリたちは、「二二世紀のいま、人種主義、人種差別は生物的特徴にかわつて、文化的特徴によつてなされている」、「文化とは人と人を区別する特徴になつてきている」といった指摘をします。

の違いが人種主義の基本になつてしまったという、やや極端な言い方もされているわけです。少し長くなりますが、その説明を見てみましょう。

ネグリたちによると、事情はなかなか複雑です。すなわち、「生物学にもとづくこれらの近代的な人種差別理論は、存在論的差異——存在の秩序における必然的な、そしてまた永遠かつ不変の亀裂——を暗に意味しているか、それへと向かう傾向がある。それゆえ、そうした理論的立場に反発する近代的な反人種差別理論は、生物学的な本質主義の概念に反対するものとして自らを位置づけ、人種間の差異はむしろ社会的かつ文化的な諸力によつて構成されると主張することになる」。

たしかに、現代の「常識」として肌の色の違いを言い立てて人間を差別することは、公然とは行われることが少なくなりました。「人種」による差異が社会問題として語られる場合にも、生活環境、家庭、貧困、教育などの社会的問題として、また宗教や文化の違いによる問題として、論じられる傾向が大変強いと言つてよいでしょう。

しかし、ネグリとハートは、そこに実は現代の深刻な問題があると指摘するのです。人間は生まれつき何らかの生物学的な身体的特徴を持っていますから、肌の色が黒い黄色いといって、それを変えることはできません。生得の特徴は ☐ X ☐ なものでしょう。だが、社会や文化の違いということは、ある程度、変えることができますから、そうした反人種差別理論は人間を平等な基準に置き、「同一」の存在論的秩序や同一の本性に属する」ものとして捉えることを意味する。けれども、<sup>A</sup> 実はこうした反

人種差別理論に現代の落とし穴がある、というのです。

グローバル化と情報化が推し進める現代世界の「帝国」化の中では、ネグリたちによると、「人種的な憎悪と恐怖の主要な表

象がそれまでの「Y」差異から、社会学的かつ文化的な記号表現へと移動」することになります。

ここでの「B」「帝国」の概念とは、「空間的な全体性を包みこむ体制」のことであり、「文明化された」世界全体をじつさいに支配する体制」であって、それは領土による境界の制約を受けないものと想定されます。また歴史上の「体制ではなく、「時間的な境界をもたず、その意味で、歴史の外部ないしは終りに位置するような体制なのである」、その支配は「あらゆる社会生活の深部にまでその力を行き渡らせながら、社会秩序の全域に作用を及ぼす」、そして「領土と住民を管理運営するばかりでなく、自らが住まう世界そのものを創り出すのである」ということにもなるわけです。

いわば、グローバル化と情報化の行き着くところ、世界は「グローバル体制」とでもいったものに覆われ、その支配の性格はネグリたちの言うような形になるということなのでしょう。これに対しては異論はあるものの、現代における「人種差別主義」の性格について論じるころは重要な問題を含んでいます。

ネグリとハートは、「帝国」の人種差別理論がどのように作動しているか、と問い、フランスの哲学者エチエンヌ・バリバー(注3)ルが「この新たな人種差別主義を、差異主義的な人種差別主義とか、人種なき人種差別主義と名づけている」ことに触れ、それは「生物学的概念にもとづかない人種差別主義」であると言っていることを引いて、「人種差別主義の基礎および(ア)シチュエーションとしての生物学はたしかにそこでは放棄されているものの、今度はまさに文化こそがかつて生物学が担っていた役割を果たすように仕向けられるのである」と言います。

人間の生物的特徴は固定された不変のものであるが、文化は、普通、歴史の中で変化しうるものであり(ア)可塑的で流動的なものである、と考えられています。文化は、先に触れたように(エ)ジュンスイではありえず、混成化するものです。とこ

ろが、「帝国」の人種差別理論から見ると、諸文化の(エ)ジュウナン性と共存可能性には厳格な限界が存在することになりま

す。そこでは一つの文化や伝統と、別のそれとの間が乗り越えられないものとして捉えられます。その結果、異文化間の混交を

許したりそれを主張したりすることは、無益であるだけでなく(オ)キケンなことと考えられているのだ、ということです。

たしかに、九〇年代初めに現れて世界的に論争を巻き起こした「文明の衝突」論では、「文明の違いは乗り越えられない」と主張されていました。湾岸戦争の後で現れたこの理論は、結局、二〇〇三年三月〜五月のイラク戦争にいたる世界認識の枠組みを作り、結果として米英軍の攻撃を正当化する基礎的な政治理論となった面があると言ってもよいのではないのでしょうか。そして、それは「九・一一」のテロ攻撃の背景にある世界認識を形づくった面もあるのではないのでしょうか。

ネグリとハートは、「社会的差異の理論として文化に立脚する立場は、生物学に立脚する立場に劣らず「本質主義的」なのである」とさ述べています。このような文化の捉え方には疑問があるとは言っても、現実には「文化の差異」をもって異民族や他者を排斥しようとする動きが根強く存在することも事実でしょう。「移民排斥」を主張する「極右」政治家であるフランスのル・ペン氏やオーストリアのハイダー氏などの政治的立場には、こうした「文化の差異」に立脚する人種差別理論の影響が見られると思います。

これはイギリスの社会人類学者アダム・クーパー(注4)の『カルチャー』という本に出てくる話ですが、ラトガース大学のモファート教授の報告によると、教授が自分の教室で、大学で同じ寮に住む白人系と黒人系の学生の間で議論をさせると、生物学的特徴から人種について語ることは拒否するのですが、文化の違いについてはそれぞれの立場から堂々と意見を述べるそうです。文化の差異を論ずることは今日的な話題であり、政治的にも正しいことと考えられているとのことです。《i》

人種主義が二〇世紀においていかに悲惨な結果を生んだかは知られていますから、生物的特徴による差異を言うことはタブーとなっているし、それはアメリカ社会でも徹底されてきていて、肌の色の違いを理由に社会的な問題を論じることは政治的に正

問1、傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(ア) フンソウ

16

- ① 殺虫剤をフンシヤする。  
② 定期券をフンシツする。  
③ 自由なフンイキを感じる。  
④ 待遇の違いにフンガイする。

(イ) シチュウ

17

- ① 主君にチュウセイを誓う。  
② チュウシヨウ的な表現。  
③ 道路にデンチュウを建てる。  
④ 外国にチュウザイする。

【解答番号

16

20

】

とアメリカを中心とする多国籍軍の間で行われた戦争。

5 イラク戦争：二〇〇三年三月、イラクで大量破壊兵器が製造されているとして、アメリカ、イギリスがイラクを攻撃したことによって始まった戦争。

6 「九・一一」のテロ攻撃：二〇〇一年九月一日、アメリカで起きた同時多発テロ事件。アメリカ政府は事件の首謀者をイスラム過激派の指導者オサマ・ビン・ラディンと断定した。

7 ル・ペン：ジャン＝マリイ・ル・ペン。フランスの政治家（一九二八～）。

8 ハイダー：イェルク・ハイダー。オーストリアの政治家（一九五〇～二〇〇八）。

9 アダム・クーパー：イギリスの社会人類学者（生没年不詳）。

しくない、という社会的 (b) 通念が生まれてきているようです。《 ii 》  
けれども、実際にそこで論じられることといえば、何でしょうか。文化の違いを言うことは、自分の文化はあなたの文化とこのように違う——料理の好み、衣服、あいさつの仕方、ジェスチャーや話し方のアクセント、信仰など——、とさまざまな面で違いを主張することですが、好きな食べ物はこれこれだといったようなことが話し合われている分にはよいものの、小さな違いはいつの間にか大きな価値観の差異にまで発展することもあります。《 iii 》  
モファト教授の研究に戻ると、同じ寮に住む黒人系と白人系の学生たちの文化の主な違いとは、どんなポピュラー音楽が好きか、どんなファストフードを食べるかといったことくらいしかない、とはいうものの、その違いを黒人系と白人系の学生の間を分ける線として引いているということです。同じ大学で学ぶ現代アメリカの学生たちであっても、ささいな面における文化の違いには敏感であり、その小さな違いに二つのグループを分ける基準を設けていると言ってもよいかもしれません。その差が一般のアメリカ社会で、家族や生活環境や職業などの面にまで及べば、民族系統や伝統の違いといった面まで含む文化の差が社会的な意味を持つようになるのではないのでしょうか。クーパーも、文化の概念は人種差別理論を強化する面がありうることも論じているのです。《 iv 》

—青木保『多文化世界』による—

(注)

- 1 A・ネグリ：アントニオ・ネグリ。イタリアの政治哲学者（一九三三～）。  
2 M・ハート：マイケル・ハート。アメリカの政治哲学者（一九六〇～）。  
3 エチエンヌ・バリバル：フランスの哲学者（一九四二～）。  
4 湾岸戦争：一九九〇年八月のイラクのクウェート侵攻をきっかけとして翌年一月から始まった、イラク軍

(ウ) ジュンスイ

18

- ① 予算がジュンタクにある。  
 ② ジュンシヨク者を悼む。  
 ③ 旅行は来月のゲジュンだ。  
 ④ タンジュンな計算をする。

(エ) ジュウナン

19

- ① 敵をカイジュウする。  
 ② 漁業にジュウジする。  
 ③ 道路ジュウタイを回避する。  
 ④ 保育施設をカクジュウする。

(オ) キケン

20

- ① キガの問題に取り組む。  
 ② キバツな発想をする。  
 ③ 平和をキュウする。  
 ④ 現状にキグの念を抱く。

問2、傍線部 (a)・(b) の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の ①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

(a) 可塑的

- ① 伝え受け継がれるさま  
 ② 形が変わりやすいさま  
 ③ 広く行きわたっているさま  
 ④ 人の手が加わっているさま

21

(b) 通念

- ① 古来認められてきた正しい筋道  
 ② 表向きとっている基本的原則  
 ③ 正しい行為のために守るべき法律  
 ④ 広く一般にあてはまる考え

22

問3、本文中の空欄

X

Y

に入る最も適当な語を、次の ①～④のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

[解答番号]

X

23

Y

24

|   |   |
|---|---|
| Y | X |
|---|---|

- ① 無意識的  
 ② 絶対的  
 ③ 化学的  
 ④ 哲学的  
 ⑤ 物理的  
 ⑥ 表面的  
 ⑦ 生物学的  
 ⑧ 政治学的

問4、次の文は本文の一部である。これを入れるのに最も適当な箇所は本文中の空欄 ①～④のうちどれか。次の ①～④のうちから一つ選びなさい。

[解答番号]

25

その一方で、文化の違いを論じるのは正当な議論、正当な権利とされているらしいのです。

- ① ① ② ③ ④

問5、本文中の空欄

I

に入る最も適当な言葉を、次の ①～④のうちから一つ選びなさい。

[解答番号

26

]

- ① 文化を持つということが人間の間に隔絶や差異を持ち込む
- ② 文化はその人種が歴史の中で形づくってきた伝統である
- ③ 文化は生物的特徴によるよりも明確で厳密な区別が可能
- ④ 文化の間には厳密な境界が存在し混じり合うことはない

問6、傍線部A「実はこうした反人種差別理論に現代の落とし穴がある」とあるが、ここで筆者はどのようなことを言いたいのか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

[解答番号

27

]

- ① 存在論的差異にもとづく近代的な人種差別主義に反対する理論が、存在論的差異に代わり文化的差異を区別の根拠としたことで、人々に異文化に対する憎悪や恐怖が生まれたということ。
- ② 歴史の外に位置し、領土と住民を対象としない現代世界の体制は、人種概念を否定することで差別を放棄しているが、「人種なき人種差別主義」に対しては無策であるということ。
- ③ 変更可能な文化によって人種を定義するという理論は一見反差別的であるが、実際は本質的なものとして人種と結びつけることで文化の分断や衝突が起きているということ。
- ④ 人間を平等な基準に置き、同一の存在論的秩序や本性に属するものとする反人種差別理論が、グローバル化と情報化が推し進める世界の全体主義を助長しているということ。

問7、傍線部B「『帝国』の概念」の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

[解答番号

28

]

- ① 国民国家の主権に代わって世界を統治する主権的権力のことである。
- ② 自国の境界を越える主権の拡張を目指し、世界全体の分割を主張する。
- ③ 地球上の特定の範囲を指すものではなく、地理的な限界も存在しない。
- ④ 世界市場において、政治的主体としてグローバルな交換を有効に調整する。

問8、傍線部C「文化の差異を論ずることは今日的な話題であり、政治的にも正しいことと考えられている」とあるが、これについて筆者はどのように述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

[解答番号

29

]

- ① 文化の差異を論ずることは、文化の差異を根拠として異民族を排斥しようとする極右政治家の思想に賛同する行為となるので、政治的なタブーとして徹底するべきである。
- ② 文化の差異について実際に論じられているのは料理の好みや衣服などについてであり、こうした小さな違いを無理に価値観の差異にまで発展させて議論しているに過ぎない。
- ③ 文化の差異を論ずることは文化を区別することであり、そこに社会的な意味が付加され、価値づけられることによって差別が起こる可能性があることを認識する必要がある。

- ③ B 細胞は活性化する。  
 ④ B 細胞は活性化しない。  
 ⑤ キラー T 細胞は活性化する。  
 ⑥ キラー T 細胞は活性化しない。

- ① ①・③・⑤    ② ①・③・⑥    ③ ①・④・⑤    ④ ①・④・⑥  
 ⑤ ②・③・⑤    ⑥ ②・③・⑥    ⑦ ②・④・⑤    ⑧ ②・④・⑥

問 4. 免疫機能が低下し、病原性の低い病原体によって発病することを何というか。  
 最も適当なものを、次の ①～⑤ のうちから一つ選びなさい。

25

- ① アナフィラキシーショック    ② 自己免疫疾患    ③ 日和見感染  
 ④ ホメオスタシス    ⑤ 免疫寛容

免疫は予防接種や血清療法などの医療に応用されている。無毒化または弱毒化した病原体や毒素を **力** としてあらかじめ接種し、体内に **キ** や免疫記憶細胞をつくらせておく。この時の免疫反応を **ク** という。このとき用いられる **力** は **ケ** と呼ばれ、この方法を予防接種という。また、毒ヘビにかまれた場合、あらかじめ毒素をウマなどの動物に接種し、これに対する **キ** をつくらせる。この **キ** を含む血清を **コ** という。**コ** を注射し体内に入った毒素を取り除くこの方法を血清療法と呼ぶ。

問 5. 文中の空欄 **力** ～ **コ** に入る語はどれか。最も適当なものを、次の ①～⑤ のうちから一つ選びなさい。

26

- |   | 力  | キ  | ク    | ケ    | コ    |
|---|----|----|------|------|------|
| ① | 抗体 | 抗原 | 一次応答 | ワクチン | 抗血清  |
| ② | 抗体 | 抗原 | 一次応答 | 抗血清  | ワクチン |
| ③ | 抗体 | 抗原 | 二次応答 | ワクチン | 抗血清  |
| ④ | 抗体 | 抗原 | 二次応答 | 抗血清  | ワクチン |
| ⑤ | 抗原 | 抗体 | 一次応答 | ワクチン | 抗血清  |
| ⑥ | 抗原 | 抗体 | 一次応答 | 抗血清  | ワクチン |
| ⑦ | 抗原 | 抗体 | 二次応答 | ワクチン | 抗血清  |
| ⑧ | 抗原 | 抗体 | 二次応答 | 抗血清  | ワクチン |

問 9. 本文の内容に合致するものを、次の ①～④ のうちから一つ選びなさい。

【解答番号】  
 30

- ① 文化の差異について、境遇が似た者同士が小さな違いに敏感になって議論する場合と、一般の社会で民族系統や伝統などの大きな違いが議論される場合では、議論の本質が異なる。
- ② 湾岸戦争からイラク戦争にいたる過程で「文明の衝突」論は、英米軍の攻撃の根拠とされ一定の役割を果たした。
- ③ 現代において人種主義が政治的にタブーとされているのは、身体的特徴が峻別（しゅんべつ）できるものではないからである。
- ④ 文化という言葉には肯定的な面と否定的な面があるが、「文化の多様性」という語は文化を肯定的に捉えている。
- ⑤ 文化を社会的差異の根拠とするという理論は、これにもとづいた動きが根強く存在することから正しいと言える。